

県議会議員

あらい、絹世の磯っ子レポート

県政を
もっと
身近に



<http://www.araikinuyo.jp>

ラグビーW杯、東京五輪など盛り上げ 神奈川県がスポーツ振興で取り組み

日本では2019年にラグビーワールドカップ大会、翌2020年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会とスポーツのビッグイベントが開催されますが、神奈川県でもこれに一役買うことになり、その取り組みが本格化してきました。初めて関連の予算が盛り込まれた補正予算案が6月～7月にかけて開かれた2015年第2回定例県議会で可決・承認されました。ラグビーW杯大会は9月から10月にかけて全国12会場で開かれますが、この一つとして県と横浜市を開催都市とする試合が横浜国際総合競技場で行われます。また日本代表チームの関東地区の合宿地に小田原市が選ばれたことで、県と小田原市は関連事業の準備に取り掛かることにしています。東京オリンピック・パラリンピック大会(7～9月)ではセーリング競技が江の島を会場に開かれることになり、県ではこれへの対応とともに、参加各国・地域の選手団の事前キャンプ誘致など、パラリンピックでは出場選手らとの交流イベントなどをそれぞれ行い、大会を盛り上げていくことにしています。またユニークな取り組みとして「神奈川県育ちのオリンピック選手を支援していこう」と、若手有望アスリート育成事業にも乗り出します。

この大会を踏まえるとともに県内のアスリートの拠点、運動・スポーツを通じて未病を治す取り組み、障がい者のスポーツ振興の機能を持つとともに、老朽化した県立体育センター(藤沢市善行)の再整備に取り掛かることにしています。これらの事柄については定例県議会での議員の質問でも明らかになりましたが、同時に県では「オリンピックだけでなく観光対策に活用できるものとして、指定を受けた特区制度を活用しての地域版・通訳案内士制度を設け、育成・確保をしていきたい」「スポーツ振興のための条例制定を、一つの有効な方法として検討していきたい」とも答えています。

【ラグビーW杯】 2017年春までに小田原市宮城山陸上競技場を改修する。日本チームの選手らと県民・市民の交流も行う。これに先立ち今年9～10月にはイングランド大会に合わせてパブリックビューイングやラグビーに関するトークショーなどを開催する。2019年大会に向けた開催都市分担金と準備経費として補正予算に約7087万円を盛り込み認められた。

【オリンピック・パラリンピック推進事業費】 約475万円(他に当初予算で1900万円)。またアスリート育成事業費初年度分として600万円(選手20人、指導者3人と1団体を支援する。出場選手の目標は40人)。

【体育センターと隣接の総合教育センターの再整備】 整備のための調査検討費として4800万円。

コレが言いたい!

スポーツは、子供から高齢者まで幅広く心身の健康の保持・増進、青少年の健全な育成などに役立つ大変重要なものです。ラグビーW杯や東京五輪、また2012年には本県で「全国健康福祉祭」も開催され、スポーツ振興を図る上で絶好の機会になります。



県立汐見台病院の移譲先を選定するプレゼンテーションが7月9日(木)に行われ、選定の結果「医療法人社団 康心会(法人所在地:茅ヶ崎市)」が移譲先に決定しました。来年4月以降新しい病院による運営が開始されます。

磯子 あれ? これ?

磯子の城砦 幻の「笹下城(磯子・港南両区内)」

戦国時代(15～

16世紀)に関東南西部を治めていた後北条氏の家臣に、間宮氏がいました。間宮豊前守信元の本拠、笹下城(現港南区笹下・成就院周辺)は日野川、笹下川(大岡川)、左右手川の河川が天然の外堀となり、西側に険阻な山をもち自然を利用した広範囲な山城でした。城内には、杉田下郷<現港南区=松本村・関村・雑色村>と、杉田上郷<現磯子区=矢部野村(洋光台)田中村・栗木村・峰村>といわれた領地がありました。

笹下城は、杉田湊を本拠にした間宮水軍の根城で房州に進出した里見氏への備えとなり、同時に北条氏の重臣に蒔田城を構えた吉良氏がいて領地保全の役目を果たしていました。北条氏滅亡後は徳川家康に仕え幕臣として内屋敷に陣屋を構え江戸期まで続きました。また間宮家の子孫には江戸中・後期の蘭方医、杉田玄白や蝦夷地や樺太を探検した間宮林蔵など歴史に名を残した人物もいます。

城跡は、宅地開発によりかつての面影はありませんが曲輪(くるわ:城壁や堀・土塁の他、自然の崖や川などで仕切った区画)や出丸跡などがあるとされ、当時の地形を偲ぶことができます。

洋光台1丁目にある若宮神社は、小田原北条氏の時、笹下城及び間宮氏の守神として祀られ、曲輪があったとされます。

参考資料:武州久良岐郡地名考・港南の歴史・日本城郭大系6

活動報告

7月1日、8日に所属する県民企業常任委員会が行われ、下記などを質疑しました。

○女性保護施設「さつき寮」について

女性保護施設「さつき寮」が行っている女性保護事業の対象者は「配偶者暴力の被害者」「人身取引被害者」などに拡大してきたが、法の狭間で問題を抱えた様々な女性への支援を全て女性相談所や女性保護施設が担っている。その一方で女性保護施設の根拠となるのが「売春防止法」であり、支援を求める女性の実態と法令の間には大きな開きがあり、女性保護施設、女性相談所はそれに見合う運営体制になっておらず、限界がある。根拠となる売春防止法の改正や女性を支援する新たな法整備が必要であると考えている。

国に「売春防止法の改正や女性を支援する新たな法整備」に関する意見書を提出しました。

○「大涌谷周辺の火山活動に関する県の取り組み」について

今回の噴火警戒レベル3への引き上げに伴い、避難指示が発令された。避難者にとっては当分の間水道が利用出来なくなったため、避難指示が発令されている間は水道料金を減免するなどの措置が必要であると考えている。箱根町と調整を図り早期に対応を図るべきと考える。

警戒区域内の上下水道について、基本料金と使用料が免除されることとなりました

あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株) / (株)メタルワン

- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成27年4月 県議会議員2期目当選
- 県民企業常任委員会委員
- 行財政改革・地方分権特別委員会副委員長
- 自民党神奈川県議会議員団政務調査会副会長

